

名残りの 桜の花びらが春の柔らかな光につつまれる今日の佳き日、ここに大阪府立四條畷高等学校第八一回入学式を挙行いたしましたところ、PTA役員のご来賓の皆さま、並びに多くの保護者の皆様のご列席を賜り、高いところからではございますが、厚くお礼申し上げます。

保護者の皆さま、お子様の本校への入学に際して、さぞやお喜びのことと拝察いたします。

私たち、すべての教職員は、生徒の皆さんの可能性を、最大限に伸ばすことができるよう教育の質を高め、一人ひとりに寄り添った指導に努めてまいります。

さて、ただいま入学の告示を行いました三六〇名の新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。皆さんの入学を心から祝福し、歓迎いたします。高い倍率の難関を突破し、今日から「畷高生」としての第一歩を踏み出す皆さん胸の内には、未来への期待と緊張が宿っていることだと思います。

本校は、一九〇三年に、旧制四條畷中学校として、この地に生まれ、今年で創立一二三年を迎える歴史と伝統のある高等学校です。創立以来の教育方針として「質実典雅」「文武両道」を旨とし、「自主・自立・自由」の精神を育んできました。卒業生は、優に三万人を超え、あらゆる分野で、そして国内外の至る所で活躍し、社会に貢献しておいでです。

その伝統ある本校の一員となる新入生の皆さんがこれから過ごす三年間で大切にしてほしいことについて、本校の教育で重視している「探究」をテーマにしてお話しします。

本校における探究は、単なる調べ学習などではありません。ここで「探究」という二文字を、「探して究める」という言葉に読み解いて説明したいと思います。

まず「探す」とは何か。それは、自分だけの「問い」を見つけることです。現代社会では、スマホがあれば、AIに聞けば、瞬時に「答え」が見つかる時代です。しかし、誰かが用意した答えに辿り着くことは、真の学びではありません。畷高生に求められるのは、当たり前だと思われる事象に対しても「なぜなのか?」「どうしてそうなるのか?」と疑問を抱く力です。

本校が取り組んでいる研究活動（探究チャレンジの授業）では、身近な自然現象から社会の不条理まで、あらゆるものが「問い」の対象となります。自分自身の好奇心のアンテナを高く張り、心から「知りたい」と思えるテーマを「探す」こと。そこから皆さんの畷高生活は動き出すといえます。

次に「究める」とは何か。それは、安易に妥協することなく、真理の深みへと一歩でも近づこうとする意志や意欲、さらに言えば執念です。

もちろん探究の道は、決して平坦ではありません。仮説を立てても実験が失敗し、資料に当たっても矛盾に突き当たることが多くあります。しかし、そこで立ち止まってはいけません。なぜ失敗したのかを分析し、新たな角度から考え直して光を当ててみる。仲間と議論を重ね、多角的な視点から物事を捉え直す。この、粘り強く思考を掘り進める過程こそが「究める」という行為の本質です。

本校には、皆さんの「究める」姿勢を支える優れた環境があります。グローバルリーダーズハイスクールならではの文理学科での専門性の高い授業、文部科学省指定のスーパー・サイエン

ス・ハイスクールでの研究活動はもちろんのこと、海外の学校との国際交流、大学を含む専門機関との連携、また授業以外においても躰高祭・体育祭をはじめとする学校行事、さらに部活動など様々な場面で、自ら考え、多様性を認め、仲間とともに協力し、成し遂げることによって「究める」経験を積むことができます。

この「探して究める」という姿勢は、単に学問の世界だけに留まるものではありません。皆さんが将来どのような道に進もうとも、予測不可能なこの複雑な社会を生きていく上で、最も必要とされる力です。正解のない問いに対し、自らの頭で考え、納得のいく解を導き出す。その経験の積み重ねが大切です。

四條躰高校での三年間は、驚くほど速く過ぎ去ることと思います。どうか、大いに学び、失敗を恐れずに様々なことに挑戦してください。皆さんの前には、無限の可能性が広がっています。「探して究める」この言葉を胸に、今日から始まる躰高生活を、よりよい充実したものにしてください。皆さんの飛躍を心から期待しています。

令和八年四月八日
大阪府立四條躰高等学校校長
平岡 香子